



令和3年(2021年)7月30日(金) 両丹日日新聞

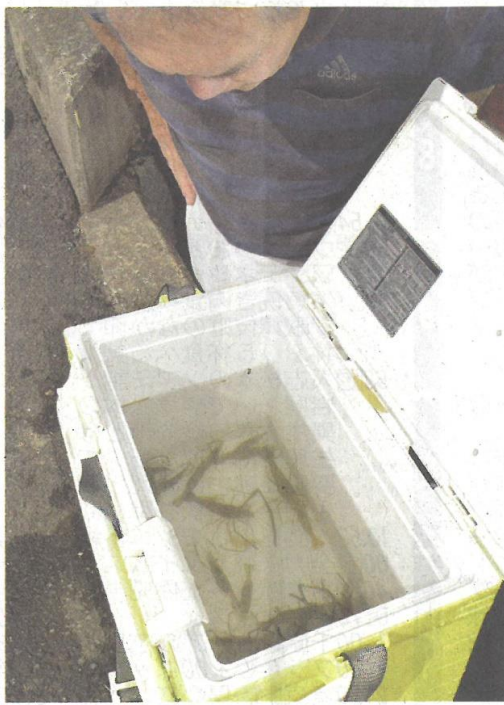
由良川産テナガエビ

海洋高の養殖実験を支援

大江まち協「何とか特産品に」と提供

テナガエビを町の特産品にしようと、宮津市の府立海洋高校の協力を得て、昨年まで養殖実験を続けていた福知山市大江町の住民団体、大江まちづくり住民協議会（桑原守朗会長）はこのほど、町内を流れる由良川で採れたテナガエビを同校に届けた。養殖実験は水温管理が難しく経費がかかるため、昨年秋に休止したが、実験を続ける同校を支援する形で、今後もテナガエビを提供していく。

協議会は2017年 度から実験を開始。同 校マリンバイオ部の生徒たちがふ化させた稚エビの提供を受け、川舟を利用した水槽で育成した。初年度は厳しい寒さで水槽に水が張り全滅した。2年目の18年度は新しく水槽を購入し、同部から再び稚エビをもらい育てたが、共食いや原因で数が減少。3年目の19年度も生存率が低かった。協議会では、同校に効果的な養殖に取り組みんでもらえるよう、育成で使っていた水槽な



海洋高校に提供したテナガエビ

どの道具を貸与。定期的にテナガエビの提供をすることも決めた。今回提供したテナガエビは25匹（うち抱卵の雌は7匹）。同町有路下地区の由良川で事務局職員が27日夜に捕まへ、翌日の28日に同校へ届けた。テナガエビを受け取った生徒たちは「ふ化させて研究に役立てたい」と喜んでいったという。

桑原会長（69）は「実験は長く続けてきたので、これで終わりというわけではなく、養殖事業をやりたいという業者さんなどがあれば、研究のデータなどを提供したい。また海洋高校には出来る限りの支援をして、何とか特産化に結びつこうとしている。」と望んでいる。

本校マリンバイオ部が、大江まちづくり住民協議会様（福知山市）から由良川（福知山市大江町内）で採れたテナガエビの提供を受けた記事が、7月30日（金）発行の両丹日日新聞に掲載されました。